

平成15年度 全国都市再生モデル調査 (協働で行う都市部の海辺再生調査)

1.応募団体名		特定非営利活動法人 海辺つくり研究会 担当者名 木村 尚 連絡先 電話番号 045-321-8601 電子メール umibeken@nifty.com
2.調査名		協働で行なう海辺 (アマモ場)再生調査
3.推薦団体名		横浜市港湾局事業計画課 : (事務連絡担当者) 担当者名 秋山禎治 篠田淳 (都市経営局政策課 石原従道) 連絡先 電話番号 045-671-7342
4.調査の 対象地域	(1)対象となる 行政区域名、 地区名等	横浜市 (神奈川県)金沢区白帆地先水域 (浅場)
	(2)対象となる 行政区域及び 地区の特徴	横浜市人口 約349万人 地区の特徴 横浜の海辺にはかつて、アマモ場がいたるところに存在し、様々な海の生物たちが生育する「海のゆりかご」となっていた。アマモ場は、海水中の過剰な栄養分を吸収し、通過する海水をろ過する作用もあるなど、きれいな海を取り戻すためにも重要な役割を果たす。 こうしたアマモ場の自然を再生し、海の生き物を取り戻すことで、かつての“海と暮らした横浜”の再生となるまちづくりに活かしていくことが期待できる。対象地区である金沢区白帆地先水域は、市民が親しみやすい場所、アマモ場再生の実現可能性が高い場所である。
5.提案 した活動 の内容	(1)テーマ 課題	自然と共生した海辺のまちづくりを行うには、市民の自発的な行動のみならず、行政の協力、漁業者の理解、NPOや市民の参加など、幅広い方々の協力が不可欠であり、その理解の醸成方法や手続きなどの課題を解決することで、全国的に同様の取組が飛躍的に推進される。
	(2)本調査費による活動の概要	1)アマモ学習会 計1回開催 (平成15年10月12日) 参加者 30人 [概要] 野島海岸近傍の小中学生と市民を対象に、東京湾の埋立の歴史とかつての姿、全国のアマモ場造成の事例、アマモの生育に適した環境条件、野島・金沢湾におけるアマモ場再生の取組みについて学習会を開催し、後日行なうアマモ播種基盤の製作方法について模擬体験を指導した。



アマモ学習風景

(2)本調査費による活動の概要

2)アマモ場再生適地調査

計1回開催(平成15年11月11日)

参加者 5人

【概要】

アマモ場再生適地選定のため、海底地形(水深・底質)、水質(水温・塩分・光量子)、海面利用(漁労・レジャー活動)の現地調査と既存資料を用いた水理環境・底質安定度の予測評価を行った。

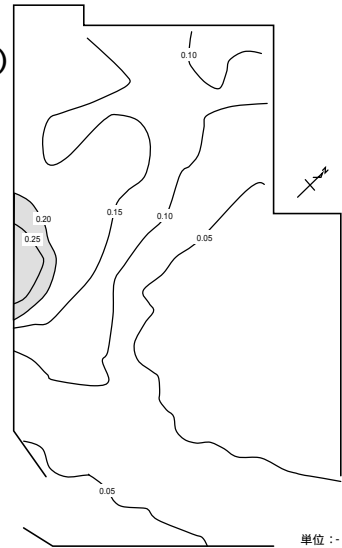
3)アマモ播種基盤の作成

計1回開催(平成15年11月15日)

参加者 20人

【概要】

アマモの播種基盤となる播種シートとコロイダルシリカを参加者と一緒に製作し、アマモの種子の構造、発芽条件、播種基盤の特性等について講習を行なうことで、アマモ場再生に必要なとなる環境条件と基盤整備の重要性について情報を共有した。



アマモ場再生適地予測図



アマモの播種基盤づくり風景

(2)本調査費による活動の概要

4)アマモ播種基盤の設置
計1回開催(平成15年11月16日)
参加者 30人

【概要】

横浜市漁協柴支所組合員の操船と市民ダイバーにより、事前調査で確認したアマモ生育適地へ播種基盤を設置した。参加した市民・小中学生・教員は、活動の状況を別途傭船したクルーズ船から視察した。

5)アマモ場再生モニタリング
計3回開催(平成15年12月16日・平成16年1月11日・平成16年2月24日)

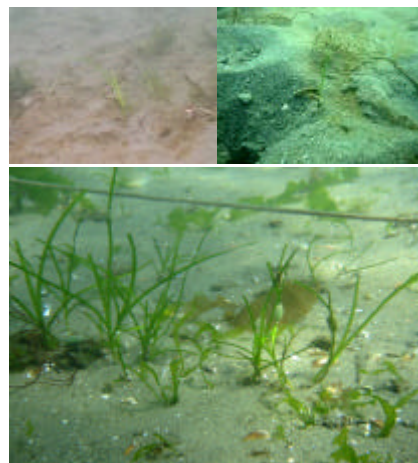
参加者 計24人

【概要】

横浜市漁協柴支所組合員の操船により、播種後のアマモの発芽生育状況について市民ダイバーが中心となって潜水調査を行った。



アマモ播種基盤の設置風景



発芽・生育中のアマモ



市民ダイバーの皆さん

6)アマモ場再生中看板等設置
計1回開催(平成15年11月16日)
参加者 10人

【概要】

発芽したアマモの保護育成を図るため、当該水域内で採貝作業を営む人達に対して、アマモ場造成の実験を行っている旨の周知啓発看板を設置した。



アマモ場再生看板設置風景

	<p>(2)本調査費による活動の概要</p>	<p>7)アマモ場再生報告会 計2回開催 (平成15年12月22日・16年1月26日) 参加者 79人</p> <p>【概要】 漁協組合員、学校、国・県・市行政職員他、野島海岸近傍の小中学生と市民を対象に、平成15年度の活動経過(花枝採集、培養、採種、保管、播種、発芽生育状況等)について報告を行った。 地元小学生によるアマモの育苗試験状況について発表をしてもらった。</p> <p>8)横浜・海の森づくりフォーラム 計1回開催 (平成16年3月27日) 参加者 125人</p> <p>【概要】 海の浄化や豊かな生態系を作り出す浅場や海辺の自然環境を核とした海辺のまちづくりのあり方について、行政、漁業者、NPO、専門家、研究機関、関係企業、市民等の幅広い関係者が協働で考え、行動することができた成果を広く発信し、共有化することを目的に、フォーラムを開催した。</p>	 <p>アマモ場再生報告会風景</p>  <p>フォーラム風景</p>
<p>6.本調査と関連する活動実績</p>		<p>金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議の旗揚げとこの再生会議が主体となったアマモ学習会の実施やアマモ場再生実験に関する各種行事の参加と情報発信(http://www.amamo.org) 水産庁の海の森づくり事業として、神奈川県と市民との協働による野島海岸と海の公園におけるアマモ場造成事業の実施。 横浜 釜石 (都市漁村交流)におけるの夢ワカメワークショップの開催と情報発信(http://homepage2.nifty.com/umibeken/)</p>	
<p>7.本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>		<p>成果 海の浄化や豊かな生態系を作り出す浅場や海辺の自然環境を核とした海辺のまちづくりのあり方について、行政、漁業者、NPO、専門家、研究機関、関係企業、市民等の幅広い関係者が協働で考え、行動することができた。協働作業によって播種したアマモは、現在、発芽し、すくすくと生長している。現在の東京湾において、アマモが生育できる場の整備さえできれば、大規模なアマモ場の再生が可能であることを確認した。 顕在化した課題 : ジョレン等を使ったアサリ採り行為によるアマモ場攪乱防止と快適な海域利用のルールづくりが急務である。</p>	